

### 風水の見どころ

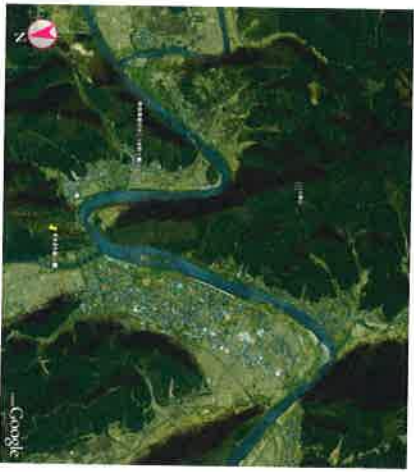
七座山は、主峰の権現座（287メートル）、烏帽子座、巖（巖）座、三木杉座、芝（柴）座、大座、松座の7つの峰（座）からなる連山です（座名は時代によって多少異なる）。

このように峰が連なり、起伏に富むコブの多い山脈は「活龍」と呼ばれ、風水では非常に賞ばれます。いきいきとした活龍の七座山は、水星形（曲がりくねりが多く、動きがある形）をしています。先端に位置するこもりとした松座を龍の頭と見ると、龍が川の水を飲みに来ているように見えます。

水星の龍は蛇にもたとえられ、龍穴は曲がりくねったところに多いとされます。ここでもそんな場所に龍穴（パワースポット）があり、エネルギーの中心点（点穴）は、川の折り返しの中心を基点として、龍の頭との間になります。

蛇行する米代川を含む七座山のあたりは「蛇形」と呼ばれる吉形で、蛇形の正面には龍穴の前を守る「案山」（きみまち阪）があります。しなやかに水が蜿蜒して龍を取り囲む姿は「有情」と呼ばれ、案山とともに龍穴を守りつかりと守っています。

きみまち阪県立自然公園より望む七座山の龍脈と、米代川の水を飲む龍の頭が見える景観は、まさしく風水の教本とも呼べる構図です。眺めているだけで自然



図版内の点線は川を、山は龍を表す。龍が湾曲した川の水を飲みに来ている「蛇形」という地勢。川のカーブが龍を囲む形は「有情」と呼ばれ、吉とされる。図版：風水古典『地形取類』より

### 気の性質

と癒されてしまう絶景のポイントです。

山や川は、見ているだけで私たちの心を大きく、広く、強くさせてくれます。昔より、名山や名川を見て育った人に英雄が多いというのもその所以でしょう。

七座山は、古くから修験道の修行の場であり、また、龍の化身・八郎太郎と戦った七柱の神々とする伝説から、各山が信仰の対象になってきました。

そうしたパワーを秘めるこの場所に、風水の理想的な風景が広がっています。この風水世界が息づく絶景に触れれば、心癒されながら力がみなぎってきます。

**山道の1 point**

人間存在から空間（自然環境）に対する影響のことを「地霊人傑」といいます。米代川流域の国有林化によって龍穴が守られているのは、地霊人傑の概念によるものか大きいでしょう。

蛇行する米代川に守られた七座山。雄大な自然の持つエネルギーを感じる

